

大きな声で言ってしまった。息子だと思うと、親子の気やすさからか、声がだんだん大きくなってくるのがわかります。大きくなるだけならいいのですが、そのうち、つい手が出てしまったりします。

そんなとき、自分が親として息子に接しているながらも、学校の他の子と比べてしまっている自分に気づくことがあります。学校では教師として、やはりしっかりできる子も見ているためか、どうして私の子ではできないのだろうか、思うてしまうことがあります。

M子の手紙

浅岡 千波

「二年間お世話になった先生への感謝の気持ちを含めて手紙を書きました。二年間本当にありがとうございました。先生には二年間も担任していただき、とてもうれしく思っています。私は中一の頃、髪を染めたり、無断欠席した

比べてはいけないと思いつながらも比べている自分を感じる時、家でも先生をしているのではないかと思います。自分が教師という職に就いていなかったら、息子に對してもっと素直に接してあげられるのではないかと思うこともあります。そして、こういう思いを今後の子育てに生かしていかなければと思います。

子育てに悩む保護者の方と一緒に。
(いわき市立沢渡小学校教諭)



り、まゆも細くしたりといろいろな先生方に迷惑をかけてしまいました。勉強も部活もろくにやっています。でも中二になり先生が担任になってからは、『どんなことでもいいから目標を持ちなさい』と、言われて、私は『心

理カウンセラーになりたい』という大きな夢に向かって頑張ろうと決めました。今までもろくに勉強もしていなかったけど、やはり自分の目標があると、取り組み方も違ってきました。少しでも夢に近づくには、努力するしかないんだということがわかりました。先生には進路のことなど相談にのっていただき本当にありがとうございました。十五日の入試には今までの努力を十分に発揮していきたいと思えます。高校に合格したら大に進むためにトップで頑張っていきたいと思えます。そして、自分の夢を実現させたいです。三年三組になれてよかったです。本当に楽しかったです。これは、今春、卒業式の後、担任したクラスのM子より手渡された一通の手紙(原文のまま)である。几帳面な字で自分の心境を素直に述べたものだった。

私は自分なりに目標を見つけ、それに向かって努力してくれるようになった彼女の姿を思い、胸が一杯になり涙があふれた。二年前、私が担任したこのクラスは、経験したことのないほどの問題が山積みのクラスだったが、私は、生徒たち一人一人の心を開か

せることに努めた。「目標を持ってやればできる」と常に励ましてきた。

私は、制服を着ている生徒たちの前では、いつも地味な服装に徹してきた。卒業式後、「先生は、いつも同じような服ばかり着ているから、これを身につけてください」と、生徒たちが小遣いで買い求めたという洋服をプレゼントしてくれた。私は優しい心情に胸を打たれ涙した。今、三十一名が栄冠を手に、自らの道を進もうとしている。

私は、心を開いてくれたこの生徒たちに感謝し、優しい心のもった服を身につけて、新年度も子供たちと共に学んでいきたいと思っている。

(栖葉町立栖葉中学校教諭)

